

社会 第5学年 工業生産とわたしたちの暮らし 検討会の想定問答

指摘 1：本時で何を見取るのか。

返し：「工場の外の運輸や貿易は、ものづくりをどのように支えているだろうか」について、人々の働きや資料同士の関係に着目し、根拠を挙げて説明している。結論だけではなく、どの事実を選び、なぜその事実で説明できると考えたかを見る。(3)の学習を具体的な記録で確かめる。

指摘 2：活動だけで終わらないか。

返し：原材料の輸入から工場、完成品の消費地や輸出先までを地図上でたどる。船舶・鉄道・自動車・航空の輸送を距離、量、時間、運ぶ品物に着目して比べ、組み合わせる理由を考える。活動後に中心の問いへ戻り、事実と説明を線でつなぐ。(3)で求める理解と表現をそこで確かめる。

指摘 3：予想と違う結果が出た場合はどうするか。

返し：輸入は不足を補うだけ、輸出は売のだけという説明には、工場が安定して生産する条件と運輸の役割を関係付ける。統計の金額と重量を混ぜず、同じ年・単位で比較する 予想に合わせて結果を書き換えず、条件や資料の読み方を再確認する。(3)に関わる考えを見直す学習として扱う。

指摘 4：説明や記述が難しい子にはどうするか。

返し：比較する記録を並べ、対象・条件・時期を指差して話せるようにする。輸送手段の組合せと役割を考える活動では、教師が比較の視点を示してから児童の言葉で説明を聞く。代筆や図の使用は認めるが、考えそのものを教師が決めない。

指摘 5：安全や個人への配慮は何か。

返し：貿易の割合や順位は資料の年と単位を必ず表示する。未取得の統計数値は補わず、実測資料の範囲で結論を述べる 実施前の点検ができない活動は共通の記録資料に替え、(3)の問いを考える機会を確保する。

指摘 6：資料やICTはどのように使うか。

返し：原材料の輸入から工場、完成品の消費地や輸出先までを地図上でたどる。船舶・鉄道・自動車・航空の輸送を距離、量、時間、運ぶ品物に着目して比べ、組み合わせる理由を考える。画面は拡大や並列表示に使い、端末がなくても印刷した同じ記録で比較できるようにする。ICTの操作の速さは評価しない。

指摘 7：時数の根拠と削る場合の考え方は。

返し：全5時間は日本文教出版の年間指導計画による。各次の配分は本案の提案である。削る場合も「工場の外の運輸や貿易は、ものづくりをどのように支えているだろうか」を追究する記録と説明の時間を残し、同じ資料を読む重複や清書の方法を見直す。安全確認や実物を確かめる過程は省かない。

指摘 8：振り返りと次の指導をどうつなぐか。

返し：「工場の外の運輸や貿易は、ものづくりをどのように支えているだろうか」について最初の考え、根拠にした記録、まだ残る疑問を読み比べる。工業生産を支えるつながりを説明する活動で根拠が不足した児童には、その記録を次時の導入に戻して確認する。態度は感想の長さではなく、調べ方や説明を見直す行動を継続して見る。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

